

実践記録

学校/学年	小学校／6年	
教科等：単元名	道徳：「幸せコアラ」	
キーワード	チェーンメールへの対処	
情報モラル指導 モデルカリキュラム表における 目標	分類	☒ 情報社会の倫理 ☐ 法の理解と遵守 ☐ 安全への知恵 ☐ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	d3 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。
	中目標項目番号 中目標項目内容	d3-2 不適切な情報であるものを認識し、対応できる
授業会場	☐ パソコン教室 ☒ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	メールの怖さの一端を理解させながら、友だちと互いに信頼し合い、友情を深め、仲よくしようとする心情を深める。	
使用教材	教材名	小学校道徳 読み物資料集
	製作者	文部科学省
	入手先(URL等)	(株)文溪堂、または文部科学省ホームページ

○展開案

	学習活動	指導 評価◎
導入	1 携帯電話の普及率を知る。 2 資料「幸せコアラ」を読み、感想を持つ。	・臨場感をもたせ、教師が携帯電話を手にして話す。ただし、携帯電話を持つことが当たり前ではないことを確認する。
展開	3 瑞葉から送られてきた「幸せコアラ」のメールを見た夏希は、どう思ったか、話し合う。 4 恵里からのメモを読んだ夏希は、どのように思ったか、ワークシートに記入し、話し合う。	・メールを受け取った時と、メールを発信し迷惑をかけた時の気持ちを対比させ、計画的に板書する。 ・携帯電話に限らず、不適切なメディアの扱いは人権問題にもつながることなど、情報モラルについて触れる。
おわり	5 本時の学習を通して、チェーンメールについてどのように思ったか、ワークシートに書き、話し合う。	◎自分にチェーンメールが来たとき、止めようと思えることができたか。

○授業の成果

- ・まだ携帯電話を持っている子どもは少ないが、携帯電話やメールへの関心が高いこの時期に、チェーンメールの知識や対処法を知ることは重要であり、6学年に適切な資料であった。
- ・もし人を傷つけるような疑いのあるチェーンメールが来たら、だれにも送らずに削除しようとする気持ちをもつことができた。メールの怖さを感じる子どももいた。

○指導のポイント・留意点

- ・メールが届いたときの主人公の立場に立たせて、考えさせた。
- ・自分を振り返る段階では、友だちの名前などは伏せるように指示しておく。